

■ 全体平均 (N=31,792) ■ 上位10%平均 (n=3,673) ■ 下位10%平均 (n=1,711)

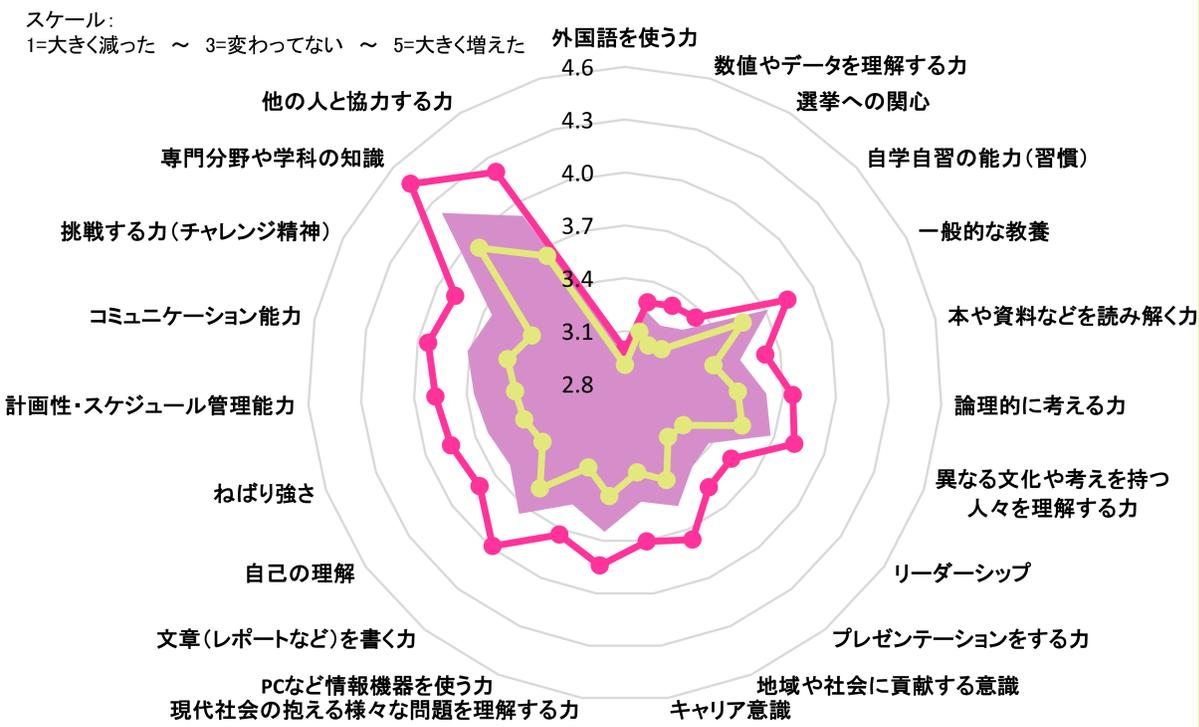


図1：学習成果に関する質問の平均値比較

幼保系短期大学における短期大学生調査を用いた学習成果の評価

○発表者：山崎慎一（桜美林大学）
研究協力者：堺完（大分大学）、宮里翔大（桜美林大学大学院）、黄海玉（短期大学基準協会）

目的

「短期大学生調査*」を用いた
幼保系短大の学習成果の評価方法の開発

方法

- ・「学習成果」の調査項目を中心に考察(図1)
- ・2015～18年度調査データ31,792件（幼保系学科を持つ計69短期大学分）を利用
- ・学習成果の項目の合計スコアについて、全体及び上位・下位10%グループの平均値を比較
- ・比較した項目は「進学理由」「学習経験」「学習時間等」「満足度」

結果

- ・短期大学生調査を用い、各短期大学の幼保系学科の差を学習成果の観点から示すことが出来た
- ・「進学理由」「学習経験」「学習時間等」「満足度」の多くの項目で差がみられた
- ・上位10%グループは、授業にも積極的であり、学習時間が長くても満足度が高くなっている
- ・「学習経験」の充実が学習成果に好影響を与えることが示唆された

課題

- ・短期大学生調査は、在学中の限られた期間の学習成果の実感を確認しているに過ぎない
- ・どのように得られた結果を各短大の「改善」に結びつけるか

*「短期大作成調査」については以下参照（<http://www.jaca.or.jp/service/other/research/tandaiseichosa.html> accessed 2019-04-01）



図2：進学理由

- ・キャンパスの雰囲気等の印象は大きな差がみられる
- ・他者からのすすめも重視される傾向
- ・学費等は重視されていない傾向



図3：授業における経験（学習経験）

- ・上位10%グループはアクティブな学習経験がなされている
- ・「授業に遅刻や欠席をした」「授業をつまらなく感じた」等は逆転項目のため、下位10%グループが上回っている

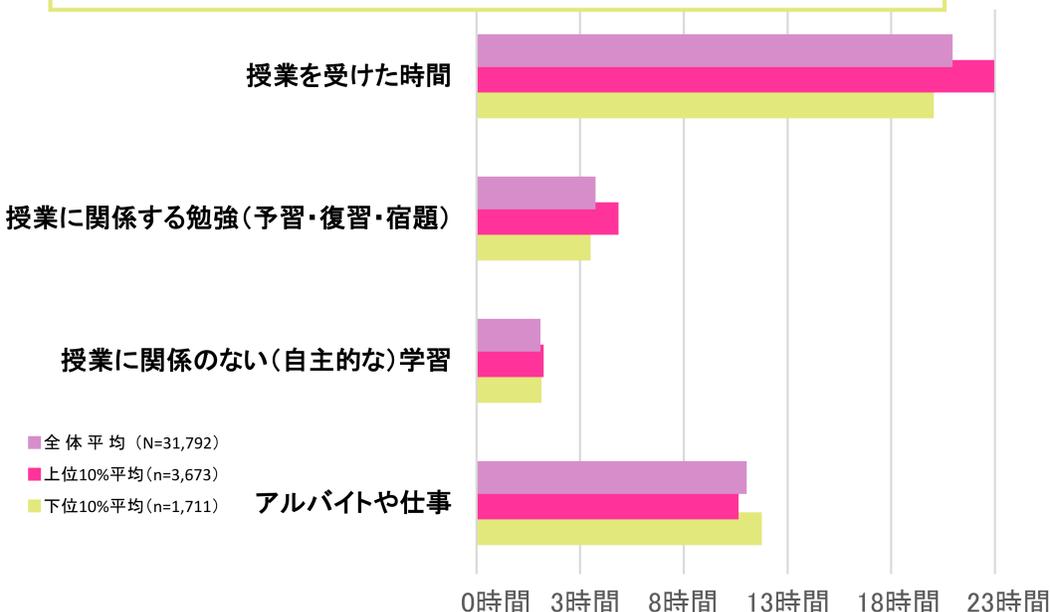


図4：一週間あたりの学習時間等

- ・「授業を受けた時間」「授業に関する勉強」の時間は、上位10%グループの方が長い傾向
- ・「アルバイトや仕事」は下位10%グループの方が長い

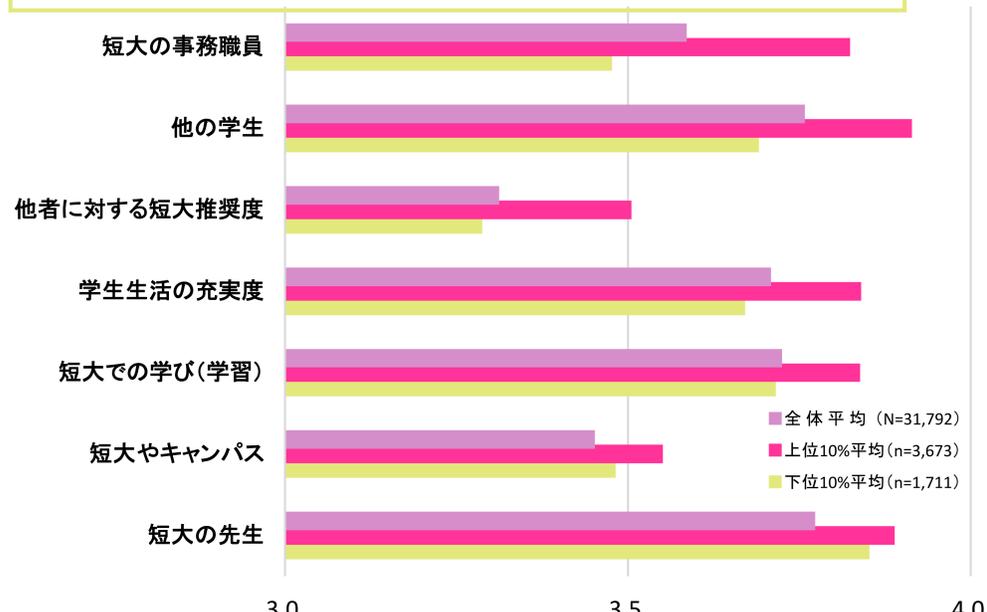


図5：満足度

- ・上位下位10%グループで最も大きな差がみられるのは「短大の事務職員」の満足度
- ・「短大の先生」についてはさほど大きな差がみられない